

2026年6月8日
環境社会配慮助言委員会委員長 原嶋 洋平
担当ワーキンググループ主査 衣笠 祥次

ウズベキスタン国タフタコラチャ峠トンネル建設事業
(協力準備調査(有償))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2026年5月15日(金) 13:55～16:05
- ・場所：JICA 本部（2階202会議室）及びオンライン
- ・ワーキンググループ委員：衣笠委員、田辺委員、谷本委員、林委員
- ・議題：ウズベキスタン国タフタコラチャ峠トンネル建設事業（協力準備調査（有償））に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・配付資料：
 - 1) 【事前配布資料】ウズベキスタン国タフタコラチャ峠トンネル建設事業（協力準備調査（有償））SC案
 - 2) 回答表及び別添資料
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン（2022年1月）

全体会合（第179回委員会）

- ・日時：2026年6月8日(月) 14:00～17:17
- ・場所：JICA 本部（2階202会議室）及びオンライン

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 本事業は、急峻な山岳地域のトンネル建設事業と斜面の補強事業であり、長期的な維持管理が重要であることから、JICA は、工事終了後の維持管理の体制が的確に行われるように事業実施機関（維持管理機関）に申し入れること。
2. 計画地は地震活動が比較的活発な地域であり、トンネル坑口部の耐震設計に加え、地震に伴うトンネル覆工コンクリートの剥落、落石、斜面崩壊、道路閉塞等の二次災害が事業安全性に与える影響が重要と考えられる。このため、過去の地震・災害履歴に関する情報を整理するとともに設計条件の整理にとどまらず、供用時の交通規制、避難誘導及び関係機関との連携等の運用面の対策についても、今後の詳細設計及び ESMP 等において検討し、DFR に記載すること。

代替案検討

3. 本案件の全体会合会における案件概要説明において、保護区の地下部分を通過する代替案④を推奨案とした点について、保護区に関する FAQ の 5 条件に照らして適切な案ではなかったため、JICA 内部でのガイドライン遵守確認のプロセスについて確認すること。

社会配慮

4. トンネル建設に伴う生活用水への影響が確認された場合の代替水源の確保等の緩和策や補償については、準備段階のみならず、建設段階・供用段階においても適切に対応するよう事業実施機関に申し入れること。

以 上